■■■　相互理解講座～世界の働き方～　■■■

2021年2月11日(木・祝)に開催された「相互理解講座～世界の働き方～」では内モンゴル出身の永良さん（ふたば国際プラザスタッフ）、スリランカ出身のヒマス・モハマドさん（株式会社水登社）、ベトナム出身のファン・バン・ティさん（長田区社会福祉協議会地域共生コーディネーター）をゲストにお招きして、日本と故郷での働き方について比較しながら話をしていただきました。講座の前半では、それぞれの参加者にこれまでの経験を話していただき、後半は参加者からの質問をもとに質疑応答を進めました。私は司会として参加しましたが、参加者の方から多くの質問を寄せていただいたことで、円滑に会を進めることができました。

私にとって印象に残ったエピソードがいくつかあります。例えば、あるゲストからは「飲み会には参加したほうがよい」という意見が出た一方で、ムスリムにとっては食事や飲酒に関して配慮がなされていない食事に参加するのは難しいという意見も出ました。宗教的な実践をあまり重視しない生活をしてきた人が、ムスリムの方に対して「日本では神様は見てないから少しくらいお肉を食べたり、お酒を飲んだりしてもいいだろう」といったことを言った場合、それを言った本人は「冗談」だと思っていたとしても、言われた方にとっては生まれてから当たり前のこととして実践している習慣・文化を否定されることになります。「日本に比べると、仏教が盛んな国は、ムスリムの食生活に対してもっと寛容だ」という意見を聞いて、私は仏教徒が日常生活の中で当たり前のように「菜食」をするベトナムの風景を思い出しました。今から思うと、菜食をしたい人は菜食をして、肉を食べたい人は肉を食べるが、肉を食べていない人に肉を食べるように無理にすすめるというようなことはなかったように思います。

さらに講座の中で大きな話題となっていたのは「時間」についてです。「会社の人に直接、8時出勤の場合は、8時10分前に来るように言われた」という話や「来日当初、遅刻に関する日本の考え方がわからず、遅刻を繰り返していたために、他の労働者よりもよい仕事ができるのに解雇された」という話がありました。司会をしながら迷ったのは「日本のルールがわからない人には教えればよい」と単純にまとめてよいのかという点です。

明言化されていないルールの存在（日本における当たり前）が問題となった時、また、一方で、はじめに挙げた飲食の文化のように、異なる宗教を信仰する人にとっての当たり前が、日本に生まれ育った人に理解されなかった時に、どのように対処すればよいのかが問題になります。一例を挙げると、講座が終わった後、会場に来ていたゲストの会社の方が、ムスリムの人がお祈りをするための部屋にするために、会社の「応接室」のドアに「祈祷中／ドアを開けないでください」という表示を掲げている様子を写した写真を見せてくれました。それぞれの個人が望んでいることを真剣に考える、そして、今あるものを少し変えてそれに対応していく。そういったことができる社会にしていくべきだと強く感じました。（ふたば国際プラザスタッフ　林 貴哉）

◆スタッフのひとりごと～帰国者の日本語教室～

最近の日本語教室は私が見ていても面白い！

これまで、帰国者のニーズを聞いて、病院で使う日本語が分からないから困るから、病院で使える言葉をというニーズに沿う形で日本語学習をしていました。それはそれで熱心に学習されていました。

しかし、そろそろ飽きてきたかなということで、今は、知的好奇心をくすぐるような楽しいテーマでの日本語学習が行われている。例えば、ある日のテーマは「ジェスチャー」「血液型」な

ど。
各国によるジェスチャーの違いや医学的根拠はないと断りをいれた血液型と性格の関係性など、しっかり内容理解できるように中国語の通訳もあるので、学習の様子を見ていていると中国語や日本語で意見や質問が飛び交う。
コロナ禍で学習人数は少ないとはいえ、関心が高いのが見て取れ、私も参加して意見を言いたくなるほど、面白い！
これができているのも、いつもテーマを考え、教材を作成してくださる支援者の日野さんのおかげです。
毎回、どんなテーマか楽しみに、事務所仕事をしながら耳を傾けて聞いています。
（Ｓ）

■■■ ハナの会■■■
◆家に帰りたくな～い

遠くからでも誰が来たかわかるくらい、いつも大きな声で「おはよう～～～」元気いっぱいでハナの会にやって来るMさん。Mさんが来ると明るい雰囲気になり、冗談や笑い声が飛び交います。そのMさんがある日皆でトランプをしていました。帰る時間になったので、スタッフが「そろそろ帰ろうか」と声をかけると「帰りたくな～い」「帰りたくな～い」駄々をこねる子どものようでした、あと少しだけゲームをして帰ろうねと声をかけ渋々車に乗り込みました。いつも明るく元気なMさんどうしたのかな？送迎の車の中で話を聞くと、どうやら遠くにいる息子さんに、声が聴きたくて電話をしたけど、出なかったようでとても寂しくなったようでした。家に帰ると誰もいないし、一人で寂しい、皆でいると気がまぎれる、ここにいると一人じゃない、だから帰りたくない。
ハナの会に来られてる利用者のほとんどの方が、一人で生活をされています、そんな利用者にとっては友人、スタッフのいるハナの会が第二の我が家であることを感じた事柄でした。（鮑 少君）

■■■ＫＦＣ日本語プロジェクト■■■
◆2020年12月20日「スピーチの会」―不完璧な日本語の美しさ

2020年12月、冬の寒さがだんだんよく感じて来て周りはクリスマス電気をきらきら飾られ、レストランには「いつかのメリークリスマス」の曲がゆっくりと流されて、道には人々も時間を引き止めたいかのように足が速く歩きたくない、景色は閑散になっていました。でもその景色の反対にKFC日曜日クラスはいつもより雰囲気が活発になってきた、みんな支援者・学習者たちは勉強しながら忙しく年末のビッグイベントを準備していました。それは「スピーチの会」です。
「スピーチの会」はＫＦＣで日本語を勉強している学習者たちに向け、12人が申込み参加しました。参加者は小学生から社会人まで、日本語能力試験N5（初級）を勉強している人からN1（上級）まで、そして国もばらばらでした。実は、スピーチ会の情報を知った時に少し気になったことがあります。スピーチ会は日本語の勉強に対していいチャンスと分かっていますが大勢の人の前に発表するのがちょっと苦手ですし、それより主な理由は自分の日本語が完璧ではないです。“自分の発音が綺麗じゃない”とか“文法が間違いかも”などという色々な心配があったんです。でもよく考えた末にチャレンジしました。まずは話題を決めて作文します。発表時間が5分以内の限定なので時間に間に合うためペラペラ話せるように練習します。準備が簡単だと思ったが、意

外に細かいことがいっぱいあって大変でした。でも準備段階もとっても勉強になりました。
発表日の朝に準備のため、皆さんが早く来ました。発表者は誰も楽しみの顔をしていました。10時にスピーチ会が始まり、司会の発表の後で皆さんが順番に登場します。参加する12人の中に私は7番目です。正直に1から5番目者までの発表はちゃんと聞きますが6番目の時には私は自分の発表が頭の中でまわって緊張して集中できませんでした。6番目さんすみませんでした。
発表会には色々の話題があります。自分の夢とか、国の伝統的な服とか、昔話などがありますので豊富な日本語を勉強できるし、各国の文化とか、人々の観点なども勉強になります。私にとってそれは発表会の一番価値点です。
そして、スピーチ会を通じて私も新しい見方を発見しました。私が発表者だったらいつも自分の完璧ではない日本語のことを心配し、恥ずかしいし、聞く人がどう考えるかな、まずいかな、色々悩んでいましたが、私が座って皆さんの発表を聞いて、聞き手になった時に二つのことを気づいたんです。一つ目は見えるとすぐに分かります。それは皆さんも私と同じように目の中に何か心配することがあり、時々言葉を忘れてしまい、時々文法の間違いがあり、ですがまた続いて頑張って最後まで発表します。二つ目はどうして恥ずかしくても困っても皆さんが自分の意見を自分の完璧ではない日本語で頑張って述べるのかと自分に質問します、それは皆さんが私に伝達したいために頑張っているじゃないかと考えて、その時に私は皆さんの完璧ではない日本語の美しさを感じました。それは努力の美しさです。
2時間を過ごしてやっと、発表会が順調に終わりました、私たちは先生のウクレレとハーモニカの演奏を聴きながら曲通りに拍手したり、皆さんが一緒にダンスをしたりしました。とても楽しい雰囲気でした。最後に皆さんが感謝を述べて祝い言葉を交換して一年をさよなら、明るい新年を迎えます。今回のスピーチ会の日本語的はやはりプロのコンテストとは比較できませんが、精神的には負けないと思います、皆さん誰もが熱心で全力頑張りました。その心を持って続ければいつか上達すると思います。　　（ウ バ ニン）

■ ■ ■ KFC中国帰国者支援事業 ■ ■ ■

◆書初めとオンライン日本語教室開催

ＫＦＣ新長田帰国者交流会の日本語教室では、1月に書初めを行いました。書道を教室で取り入れたのは初めてでしたが、みなさん熱心に、気に入ったものができるまで何枚も書き直していらっしゃいました。コロナで思うようにいかないことが多いですが、みなさんが安心して楽しく学習、交流ができるように新しいことへの取り組みを進めています。

＜書初めの感想＞
私が昔中国にいたときに、学生や大人が字をうまく書けるようになるために、習い事として習字の教室に通うのが一般的でした。書道は芸術で、習字はその入り口です。日本に来てから、日本の小学校に習字の授業があることを知りました。専用の習字セットがあり、筆、筆巻き・すずりなどが揃っています。大変専門的で、素晴らしいです。私は中学生の時に、字をうまく書けるために、一年習字を習いました。中国では、字が綺麗だと好感度が高く、知識人のように尊敬されるので、とても得します。ですので、みんなが字を綺麗に書くのに努力します。
日本の会社、企業の看板は字が大変整っており、見やすくてきちんとしています。パソコン、スマホが主流の時代ですが、整った字を書くのに大変重要なことだと思います。家で習字するのが面倒で、ついついさぼってしまいますので、今回のように日本語教室で書初めするのがとてもいいと思います。これからはお正月だけではなく、普段の授業でも習字を練習したいと思います。

治井 吉成(訳：季 顥)

交流会へ参加できていない方々に対しても何かできないかということで、2月からWeChatを使ったオンライン日本語教室を始めました。操作に慣れないということや一度に参加できる人数が限られていることなど課題は多いですが、日本語を嬉しそうに話したり、オンライン教室をきっかけに久しく話していなかった人同士がつながって互いにお話したりされております。コロナ禍で家にいると、日本語どころか中国語も忘れたという話も聞きましたので、これからはもっと学習・交流機会づくりに取り組みたいと考えています。

■■■ＫＦＣ外国にルーツを持つ子どもの学習支援■■■
◆学習者から支援者になって

　神戸学院大学3年生のジュン クイン チャンです。ベトナムのハノイから来ました。両親の仕事関係で中学一年生の時に日本に来ました。日本に来たばかりの頃は、日本語が全く話せず、ひらがなやカタカナを読むこともできませんでした。1年目は学校の授業がわからず、言葉の壁を超えるのに毎日苦労していました。その時に、担任の先生がＫＦＣのことを教えてくださり、週2回通うようになりました。ここで、自分と同じく外国にルーツを持つ友達に出会えて、とても嬉しかったです。
毎週水曜日と木曜日の部活終わった後に、そのまま学校からＫＦＣに行きました。ＫＦＣで2年間日本語を教えてくれた先生がベトナム人で、私にとって身になる授業をしてくれた先生でした。当時の私と5個しか歳が離れていないのに、すごく日本語が上手で、憧れの存在でした。私もいつかペラペラ話せるようになりたいと思うようになりました。日本語を少しずつ聞き取れるようになっていくうちに日本での生活もだんだん慣れてきました。学校の友達も増えて、日本人の友達と遊びに行く機会を多くなりました。中学校を卒業すると同時に、ＫＦＣも卒業して、高校に進学しました。この時は、日常会話できるようになり、漢字もある程度読めていたので、中学校の時と比べて楽でした。高校でも部活に入り、友達がたくさんできました。高校3年間はすごく楽しくて、充実していました。高校を卒業し、自分の得意な英語をもっと勉強したいと思い、神戸学院大学のグローバルコミュニケーション学部に進学することになりました。
ＫＦＣに戻って支援するようになったきっかけは、大学1年生の時にＫＦＣのスタッフに声かけられたからです。ちょうどその時に日本に来たばかりのベトナム人生徒が4人いて、この4人組が卒業するまで担当しました。地域によって発音の違いがあり、同じベトナム人でもハノイとホーチミンだと、方言を使うと聞き取りにくいです。自分と違う出身地の生徒との会話に慣れるまでに少し時間がかかりました。年齢はバラバラでしたが、全員中学1年生だったので、学校の課題とテストの内容が同じで、日本語を教えながら、学校の課題やテスト前の勉強も手伝いました。日本語の文法を理解し、自分の口ですらすらと説明できるようになるまでが大変でした。例えば、助詞の「は」と「が」は色々な使い方があるので難しいです。一つの使い方を教えた後に、不用意に違う使い方を私自身が使ってしまって、生徒を混乱させることもあり、どう説明すればいいのかを悩むことが何度もありました。
それぞれの日本語のレベルに合わせて、「こどものにほんご」と「みんなのにほんご」というテキストを利用して教えました。テキストをはじめから順番に教えるのではなく、生徒の状況に応じて教える順番を変えます。また、ある程度進んだ段階で日本語文法の全体像が見えるように、どのように動詞が活用するのかを簡単に説明するように意識しました。
生徒に日本語を教えるときに追い込むような勉強はダメです。危機感や親からのプレッシャー

で、張り詰めて勉強していると１ページも進まないことに気づき、生徒のペースに合わせました。日本語で苦労している生徒のために自分も何かできないだろうかと考えるようになりました。学校の教科書に載っている長文で単語を覚えさせるのではなく、最初は簡単な単語カードを使って遊びながら教えました。私が支援していた4人の生徒は中学校を卒業し、全員が高校進学しました。
今は、日本語がまだ話せない小学生の勉強を手伝っています。漢字圏以外から来た子どもにとって、音読みと訓読みがある漢字はハードルが高いので、勉強の最初には必ず「前回の復習」を入れています。日本語を書くスキルの上達には繰り返しが重要です。
慣れない日本での生活は、大変なこともたくさん。ＫＦＣでは、日本語の上達はもちろんのこと、子どもたちがほっとして集える場であることも大事にしています。

■■■ 今後の予定■■■

■ふたば国際プラザ
○ヒューマン・シネマ上映会
第16回　3月26日（金）18：00～
『The HUNDRED FOOT JOURNEY
マダム・マロリーと魔法のスパイス』(2014、アメリカ)

○ええとこながた～多文化をたのしもう～
　3月28日（日）
第一部：13:00-14:30
第二部：15:00-16:30

■オンラインセミナー
「ミャンマーが難民をうみだす状況と、
日本と韓国における第三国定住難民支援に
関するセミナー」
　3月30日(火)17:00-19:30